

(1)「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」

社会福祉学部社会福祉学科
次に示す3項目の能力・素養を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。 (1) どのような時代が来ても、ほんとうに大切なことを見極められる教養と人間性 (2) 人や地域が抱えている課題を見極め、その課題を改善・解決できる高度な専門性 (3) 身につけた教養と専門性を、地域社会の貢献に結びつける社会性と公共性
看護学部看護学科
次に示す4項目の能力・素養を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。 (1) 豊かな人間性を育み、ヒューマンケアリングが実践できる能力。 (2) 看護の独自性を発揮し、保健・医療・福祉チームで連携・協働できる能力。 (3) 国際社会及び地域社会の健康に対する多様なニーズに貢献できる能力。 (4) ヒューマンケアに対する科学的探究心や創造性を持ち、生涯学習へ主体的に取り組む姿勢
教育学部児童教育学科
次に示す3項目の能力・素養を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。 (1) 教育・保育の専門家としての豊かな人間性と使命感の養成 (2) 子どもの「生きる力」を育むための専門知識と実践力 (3) 子どもの問題解決を図るため、地域・家庭と連携する力
教育学部保健教育学科
次に示す能力・素養を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。 (1) 保健・体育分野の専門家としての豊かな人間性と使命感の養成 (2) 子どもの個性に応じた健やかな心と身体の成長発達を支え、「生きる力」を育むための専門知識と実践力 (3) 保健・体育の知識や技術を活かし、広域の地域社会において多様な職域で社会貢献できる力

(2)「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」

社会福祉学部社会福祉学科
教育目的を達成するために、建学の精神を根底に据えた「教養」「専門」という枠組みと、「講義」「演習」「実習」という授業形態を踏まえ、カリキュラムを構成している。そして、それぞれの授業が相互に関連することで最大限の教育効果が発揮できるよう、体系的にカリキュラムを構成している。こうしたカリキュラム構成により、各学年で次の内容を修得する。 1年次：ものごとの本質を見極められる教養と福祉の心を育み、社会福祉の価値と基礎的知識を理解する。 2年次：社会福祉の専門的知識・技術を修得すると同時に、行動力と対話力を身につける。 3年次：演習と実習を通して、課題の改善・解決ができる実践力を身につける。 4年次：教養、専門性、社会性を自分自身の中に統合することで、地域社会に貢献できる人となる。

看護学部看護学科

教育目的を踏まえ、看護学部のカリキュラムを「一般教養」「看護実践の基盤」「看護の発展」の枠組みで構成する。「一般教養」では、人文・社会・自然に関する諸科学を基盤として、豊かな人間性と国際的な視野・教養を深める。「看護実践の基盤」では、看護の理論的枠組みを理解する。「看護の発展」では、あらゆる健康レベルに対応する看護の知識・応用技術を学修する。これらのカリキュラム構成により、各学年で次の内容を身につける。

1年次：豊かな人間性と社会的マナーをしっかりと身につけ、看護を理解し、看護に対する興味・関心をもつ。

2年次：人の身体と心と社会に関心をもち、専門知識を用いて対象の状況に応じた看護を考える。

3年次：演習及び実習を通して得た知識・技術を活用し、看護の役割と関連職種との連携について関心を深め、基礎的な看護を実践できる。

4年次：看護学習の集大成として、対象となる全ての人々のニーズを尊重し、看護の担い手としての責任と主体的に研鑽する姿勢を身につけ、看護専門職者としての自覚をもつ

教育学部児童教育学科

確かな実践力を持って社会に貢献できる教員・保育者を育成するために、講義科目（教養科目・専門基礎科目・専門科目）、演習科目、実習科目を有機的に関連させている。教養科目では、豊かな人間性を涵養し、専門基礎科目・専門科目で知識と技術を、演習科目では、課題探求力を修得する。そして、教育・保育実習、卒業研究が、「理論と実践をつなぐ」役割を果たすように組み立てられている。これらのカリキュラム構成により、各学年で次の内容を修得する。

1年次：社会人・職業人として必要な基礎的な知識・スキルを学び、子どもの発達的基础を理解する。

2年次：教育・保育に関する広い視野と、子どもの発達的基础知識・技能を修得する。

3年次：教員・保育者として、教科教育等の技能を高め、指導計画を立案し、実行する力を修得する。

4年次：教育・保育実践の体験を振り返り、課題を探求する力を修得する。

教育学部保健教育学科

教育や保健・体育領域の幅広い職域で人々の健康保持・増進に貢献できる人材を育成するために、低学年から段階的に専門的知識や技術を修得できるように、カリキュラム編成を行っている。教養科目と演習科目では、豊かな人間性と社会人基礎力を滋養し、専門科目では知識と技術を修得する。

また、各実習科目においては「理論と実践の統合」を目指し、教員としての人間関係能力および教育実践力を修得する。

1年次：社会人・職業人として必要な基礎的な知識・技能を学び、健康安全や身体機能の維持教育について理解する。

2年次：教育や保健体育分野に関する広い視野と、子どもの個性に応じた成長・発達の基礎的知識・技能を修得する。

3年次：教育や保健体育分野の専門家として、教科教育等の技能を高め、専門知識や指導技術を用いて、実行する力を修得する。

4年次：教育実践の体験を振り返り、課題を探求する力を修得する。